

# 道徳通信

御幸中学校

平成 28 年 10 月

日本道徳基礎教育学会会長の新宮弘識先生をお招きして、道徳授業の校内研修会を行いました。その様子を紹介します。

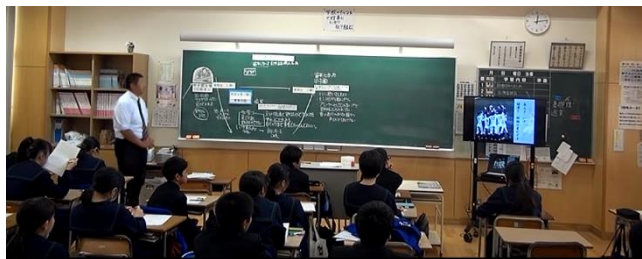


## ☆2年生 「栄冠は君に輝く」より☆

### 《資料について》

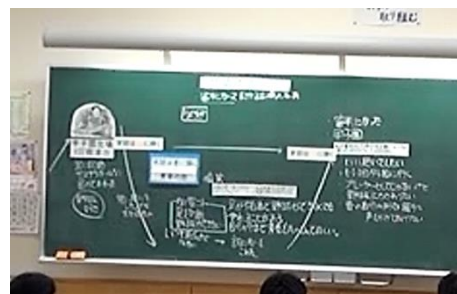
高校時代に甲子園で苦い経験をした主人公は、大人になっても過去と向き合えずにいたのだが、ある日、全国高校野球大会で流れる「栄冠は君に輝く」にまつわる新聞記事を目にする。その記事をきっかけに、二十年前の記憶が鮮明に蘇るとともに、新たな人生の目標を見つけることになる。

「栄冠は君に輝く」を作詞した加賀大介さんの歌詞に込めた思い、そして再び野球と向き合う決意をした主人公の心の変化を捉えることで、理想を追い求めていくことの大切さや尊さについて気付かせることができる資料である。



### 《授業後の感想》

- ・野球なんてもう忘れたと思っていた「私」を、一つの歌によって、また球場に立とうと思わせたことがすごいと思った。
- ・人によって栄冠の形はいろいろあるのかなと思った。ただ、その物事にまっすぐに向かい、一生懸命に取り組んだ人が勝ち取るのではないかなと思った。僕もそういうことができる人になりたいと思った。
- ・今日の授業で、どんなに悔しいこと、悲しいことがあっても、自分のしたいことを追いかけて続けることが大事なんだと思った。栄冠は君に輝くというのは、諦めずに前を向いてがんばり続ける人に輝くんじゃないかなと思った。
- ・何気なく聞いていた「栄冠は君に輝く」だが、今日の授業でこの曲の意味がわかった。加賀さんの思いを伝えていくためにも、いま野球ができることに感謝し、甲子園を目指して練習を続けたい。
- ・自分の好きな野球に対する気持ちや諦めたくないという気持ちがわかった。嫌な思い出はすべてなくなる訳ではないけど、それでも前に進もうという気持ちはすごく大切だと感じた。
- ・加賀さんは自分の夢を歌詞に込めて、選手達にがんばってほしいという思いと自分の分まで楽しんで欲しいという思いを込めているんだということがわかった。



## ☆1年生 「二通の手紙」より☆

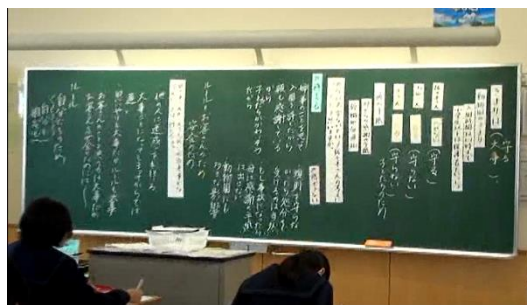
### 《資料について》

動物園の模範的職員であった元さんが、幼い姉弟への同情心から園のきまりを破ってしまう。後日、その姉弟の母からは感謝の手紙をもらう一方、園からは懲戒処分を受けてしまう。果たして、きまりの意義とは。きまりと公私のかかわりや自他の権利と義務について考えを深めることができる資料である。



### 《授業後の感想》

- ・私はよくきまりを破ってしまう。でも、この授業を受けて、きまりは自分やみんなのためにあるものだとわかった。これからは必ずきまりを守っていきたい。
- ・元さんは姉弟のことを思って入園させてあげるといふ優しさがあったけど、その優しさが姉弟を危険にしてしまう可能性もあった。きまりは必ず守らないといけないものだと感じた。でも、元さんの優しさもすごいと思ったので、私も元さんみたいな優しい心を持ちたい。
- ・元さんがきまりを守らなかったのは悪いと思った。でも、思いやりも大切だと思ったから、一緒に動物園の中に行き行ってあげることはできなかったのかと思った。
- ・きまりを守ることで事故や危険な出来事を避けることができると思った。でももし、自分が元さんの立場になったら、元さんと同じことをしたかもしれない。
- ・最初は、別にきまりを守ることは、場合によっては必要じゃない、守らなくてもいいと思っていたけど、今日の授業できまりは自分や相手、周りの人の安全などを守るためにあるから、どんな場合でも守らなければいけないと思った。



PTA 会長の岩木康彦さんには、平日のお忙しい中にもかかわらず、1年生の授業を見ていただき、さらに放課後の授業整理会にも参加していただきました。

岩木さんからは「道徳の授業の内容は、ずっと入っていく子ばかりではないと思うけど、心のどこかに残っていて、それが何十年後かに思い出されても、それでいいのではないか」という感想をいただきました。もちろん、ねらいを明確にした心に響く道徳の授業づくりを目指しますが、心の教育は時間のかかるもの、丁寧に育てていこうということを再認識させていただきました。ありがとうございました。



【岩木さんと新宮先生】